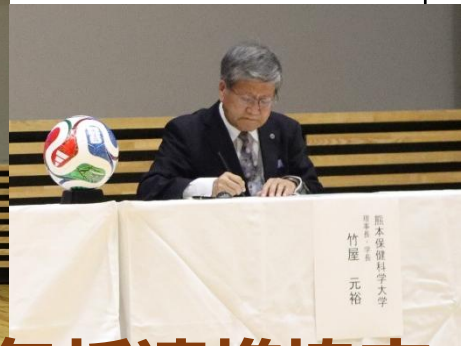




写真左は、協定書を交わした後、記念撮影する関係者。同右は、協定書に署名する竹屋理事長・学長



県サッカー協会などと包括連携協定

全国初 育成年代から継続し能力測定・分析

将来のサッカー日本代表選手の育成と地域における持続可能な競技力向上を目指し、本学と熊本県サッカー協会、嘉島町で複合型公園・施設COSMOSを運営する熊本フットボールセンターは4月19日（日）、包括連携協定を締結しました。相互の人的・知的・物的資源を活用し、スポーツを通じた人材育成、競技力向上、および地域社会の発展に寄与することを目的としています。

大学と都道府県サッカー協会による連携はこれまで例がありますが、本学が持つスポーツ医科学分野の知見を、協会が実施する「トレセン活動（選抜育成活動）」と具体的かつ継続的に結び付ける取り組みは、全国初の画期的な試みです。県の各育成年代のトレセンに所属する男女の小中学生約400人の体格、体力、運動能力などを継続的に測定・分析し、

データを蓄積。現場の選手育成と学術的な支援をダイレクトにつなぐことで、より実践的で質の高い育成環境の構築を目指します。

KMバイオロジクスアリーナで開かれた締結式では、県サッカー協会の藤山直秀副会長、熊本フットボールセンターの松下涼太代表取締役、本学の竹屋元裕理事長・学長があいさつ。竹屋理事長・学長は「この取り組みを通じ、世界で活躍する選手の育成に貢献するとともに、熊本で生まれたこのモデルを広く発信していきたい」と述べました。その後、三者が協定書に署名しました。

締結式は、県サッカー協会が主催する「2026熊本県FAトレセン保護者説明会」の前に行われ、400人を超える保護者が新たな育成プロジェクトのスタートを見守りました。（入試・広報課）

荒木特任教授に紫綬褒章

春の褒章 糖尿病学分野の発展に貢献

政府は4月28日（火）、春の褒章を発表し、学術研究や芸術、スポーツなどの分野で活躍した人に贈られる紫綬褒章に、健康・スポーツ教育研究センター長の荒木栄一特任教授が選ばれました。

荒木特任教授は、糖尿病学分野において、インスリン受容体遺伝子転写調節機構を解明。受容体以降のシグナル分子IRS-1やIRS-2を発見し、これらの糖尿病病態への関与を明らかにしました。また、これらの知見を新規糖尿病治療法開発に繋げ、糖尿病学分野の発展に貢献しました。

受章にあたり荒木特任教授は「私の約40年にわたる研究の中で、インスリン作用を種々の細胞に伝えるインスリン受容体や、インスリン受容体からのシグナルを細胞内で分岐伝達するIRS-1、IRS-2といった分子の発現調節機序およびシグナル伝達機序の一端を解明できたことを大変嬉しく思っております。これまでの成果が、糖尿病の予防や治療に貢献できることを祈念するとともに、私自身もさらに研鑽を重ねてまいりたいと考えております」とコメントしました。（NL編集部）



荒木栄一特任教授

教職員一丸の取り組みが好結果に

2025年度国試総括

上妻行則 国家試験対策委員長

2019年末よりはじまった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、大学教育にも大きな影響を与えました。この春卒業した学生はコロナ禍真ただ中に入学し、PCR検査や一部の科目では遠隔による講義、月ごとに時間割が変わるなど大変な学生生活を送りました。

しかし、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が「2類感染症」から「5類感染症」に変更されたことにより、大学にも活気が戻り、国家試験対策も様々な取り組みが行えるようになりました。その結果、2025年度の国家試験は、理学療法士、作業療法士、保健師、助産師では合格率100%を達成しました。一方、臨床検査技師、看護師、言語聴覚士は惜しくも全員合格とはなりませんでしたが、全国平均を上回る合格率を達成することが出来ました。

このような素晴らしい結果となったのは、最後まであきらめずに頑張った学生の努力は勿論ですが、日々様々な国家試験対策に取り組んでこられた各学科・専攻の先生方をはじめ、教職員の皆様のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

臨床検査技師国家試験前日、太宰府天満宮で合格祈願をする学生たち

2026年度 基礎セミナー 担当教員・テーマ一覧

担当教員	セミナーテーマ	担当教員	セミナーテーマ
上妻 行則	米粉を知って、米粉スイーツを作ろう	野中 喜久	動物と暮らす社会をつくるために～私たちができること～
澤崎 美香	自由であれ！導け熊本～インクルーシブ社会へ～	佐藤 公美	「もしも」に備える～大学生生活と防災
吉野 拓未	コーヒーを探求する	山鹿 敏臣	コンピュータの不思議
爲近 岳夫	陸のカーリング“ポッチャ”を楽しもう	龜山 広喜	子宮頸がんについて調べてみよう
村上 美華	考えてみよう！大学生としての私の健康	山本 良平	くまのPR音楽を作ろう
甲 敏哲	永続機関は本当に作れるのかー エネルギーを「考え・見せ・伝える」技術	渡邊 敏之	資産運用を考える
川村 淳一郎	ダークマターについて調べてみよう	山本 隆敏	性感感染症について考える
立石 多貴子	サイエンススイーツの世界を旅しよう	徳永 郁子	ごはんなに食べる？～災害時編～
水本 豪	専門職のキャリアアップ ～未来の自分をデザインしよう～	宮田 浩紀	熊本のスポーツと地域の魅力を探る
與座 嘉康	Let's ダイエット	矢野 正人	人生ゲームを創ろう
船越 和美	折り紙を楽しむ	山口 類	大学生、成人になって行うこと
大澤 早苗	令和の時代に、道案内の達人になってみた！	安楽 健作	くすりはリスク（そのリスクを回避するために）
東谷 孝一	「平和」を学び、「平和」をもたらす人になる	本田 啓太	歩行の科学ー高齢者の健康寿命延伸に向けたトレーニングの設計ー
古閑 公治	気軽にアウトドア（キャンプ初心者編）	壱岐尾 優太	学内に潜むバリアをみつげよう
竹永 和典	ペテルギウスは爆発するか？	畑添 涼	他職種の魅力を探索する ～ちがいを知るところから始めよう～
向井 良人	図書館があれば	松尾 朗	空間デザインと人間行動：なぜ私たちはその場所に吸い寄せられるのか？
久松 美佐子	自分の気持ちを楽にする方法を考えよう	田中 恵理	一日に必要なカロリーってどれくらい？

ユニークな「学び」34講座 多彩な内容「基礎セミナー」



和気あいあいな雰囲気の中で進められる「基礎セミナー」。教員と学生の距離が近いのも特徴です

学部1年次生を対象とした学科混成の少人数ゼミ「基礎セミナー」が4月から毎週水曜の3、4限目に開講されています。本学教養教育の目玉科目のひとつ。多彩な内容の34講座が用意され、学生たちは形にこだわらない大学ならではの学びを体感しています。

「米粉を知って、米粉スイーツを作ろう」「折り紙を楽しむ」「人生ゲームを創ろう」ー。本年度も担当教員の専門分野はもちろん、趣味や特技などを生かしたユニークな講座が目白押しです。1講座あたりの受講生は、学科・専攻の垣根を越えた12人程度で編成。入学間もない新入生にとっては、「学び」の幅の広さを知る機会になるとともに、新しい仲間づくりのきっかけにもなっています。

学修の成果を披露する合同発表会は7月22日（水）に予定されています。（NL編集部）

保健科学研究科 竹熊 千晶教授

「地域在住高齢者の長期ケアと尊厳ある看取りをどのように支えるか」をテーマにした令和8（2026）年度第1回学術講演会（国際シンポジウム）が4月15日（水）、1300L講義室で開催されました。熊本と台湾をつないだ講演会の様子を、竹熊千晶教授（保健科学研究科）に報告していただきました。

台湾からの訪問団も参加

高齢者の長期ケア 方策探る／「尊厳ある看取り」で意見交換

台湾でも日本と同様に少子高齢化が急速に進み、高齢者の長期ケアをどのようにしていくかが大きな社会課題になっています。今回のシンポに合わせ、台湾で実際に長期ケア「共生の家」を実践している施設関係者、現地住民代表、国会議員や地域医療関係者のみなさんに通訳者を入れた17名が来熊、来学されました。

基調講演では、厚生労働省医務技監の迫井正深氏が、日本の高齢化の特徴、地域包括ケアシステムの考え方と在宅医療の位置づけを説明。地域差を伴いながらケアニーズが変化する中で「ご当地システム」による現場実装こそが最大のチャレンジであり、尊厳ある看取りを支えるのは地域社会での連続した支援であるという内容でした。

引き続き、台湾衛生福利部次長の呂健徳氏がZoomで台湾の現在の政策と今後の展開について話題提供。交流団長で元台湾行政院政務委員・小児科医でもある陳錦煌氏からは、自身が地域で行っている活動の報告がありました。また、地方行政の立場からは、熊本県長寿社会局局長の竹中良氏が、縁側づくり事業、認知症対策、ペットとの共生、地域資源活用事例など、県の取り組みを紹介。最後に、全国ホームホスピス協会理事長の市原美穂氏が「ホームホスピスとは何か、最期まで生ききることをささえるホームホスピス」と題した報告を行い、意見交換を行いました。

シンポジウムには台湾、学内教職員、県職員、公衆衛生看護学専攻学生、学外の保健医療福祉職者など計97名の参加者があり、日本と台湾で制度設計にあたる立場の人たち、目の前の地域の課題に取り組む実践者、これから保健医療に従事する学生たちにより、熱量の高いシンポとなりました。今後とも交流しながら情報共有し学び合うことが超高齢多死社会を生きる力になると思われまます。本学の役割の大きさを痛感しました。



台湾での実践を紹介する陳氏

基調講演に立つ迫井氏



学術講演会の会場。台湾からも17人の参加がありました

就活、国試対策…4年生保護者会

全学科・専攻を対象とした4年生保護者会を4月18日（土）に開催し、154組182人の保護者の参加がありました。全体会での学長挨拶・概況説明、学部長挨拶に続き、各学科・専攻に分かれての分科会、希望者に対しての個別面談を行いました。保護者からは「今日は来てよかったです」、「就職に向けて支援をお願いします」という声が聞かれました。4年生の実習、進路決定、国家試験合格に向けて保護者と教職員が力を合わせながら引き続き学生をサポートしていきたいと思ひます。（就職・実習支援課）



4年生保護者会全体会の会場

「スタプラ」本格始動

業務改善、交流…
月1回の定例会合

「事務職員による勉強会（仮称）」として昨年度2回のトライアルを開催してきた取り組みが、令和8年度から正式に「KUMAHO Staff Learning+（通称：スタプラ）」と銘打ってスタートしました。新名称には、事務職員が気軽に参加し、学びを通じてつながりを広げていく「学びのコミュニティ」として育てていきたいという思いが込められています。

スタプラは、原則として毎月第3金曜午後3～4時に定例開催。偶数月は「クマホの未来創造チーム」、奇数月は事務局長が主催する形で運営されます。幅広いテーマや柔軟な開催形式により業務改善のヒントや部署を越えた交流の機会を提供していく予定です。

正式スタート後初となった4月17日（金）は、入試・広報課の隈部拓朗さんを講師に、「本学の学生募集について」をテーマに開催しました。会場となったキャンパステラス・コロシアムには多くの職員が集まり、学生募

集の現状や広報活動の工夫などについて理解を深める有意義な時間となりました。

次回は5月22日（金）に開催予定です。事務職員の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。（クマホの未来創造チーム）



初開催の「スタプラ」。本学の学生募集状況について説明する隈部さん

銀杏アラカルト



学生にインタビューするくまモン

■くまモン登場 県政番組を収録

県政番組「GO！くまモン☆ナビ」の撮影が4月24日（金）、本学で行われました。TKU（テレビ熊本）の取材クルーが来訪し、公衆衛生看護学専攻科の学生インタビューや授業風景の収録を行いました。撮影には熊本県のPRキャラクター・くまモンも登場。愛くるしい姿を見せると、学生や教職員から自然と笑顔がこぼれ、撮影現場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。学生インタビューでは、日頃の学びや将来の目標について語る様子が収録され、授業風景では、地域の健康を支える保健師を目指す学生の姿が紹介されました。番組は5月30日（土）20時54分にTKUで放送予定です。（入試・広報課）

インフォメーション

行事予定（5月8日～5月18日）

5/15（金）	開学記念日（休日）
5/18（月）～6/30（火）	【オンデマンド】保護者会（看護3年, OT3年, ST2年）

※「NEWSLETTER328号」は5月18日（月）に配信します。